

ジャカルタの日常を描く

ケン・パターン回顧展「1981-2007」

還暦を迎えたカナダ人芸術家、ケン・パターン氏の回顧展（カナダ女性協会主催）が、南ジャカルタ・クニンガンのホテル・グラン・メリアで19日まで開かれている。

リトグラフ（石版画）や油絵の90点が展示され、1981年から2007年までの軌跡を追うことができる。新作の約20点は、昨年にパターン氏が訪れた東ヌサトゥンガラ州のフローレス島やスラウエシ島の風景作品は販売され、収益は同協会に寄付される。

劇的に変化する街に魅せられ1989年にジャカルタへ居を移してからは日常の風景を描き続けてきた。作品から、現在までのジャカルタの移り変わりを概観できる。

リトグラフの混沌としたスラム街と秩序だった高層ビルのコントラストが印象深い。また、川辺に建っている木造の家、洗濯物、瓶果物や舗装されていない小石が転がっている道、屋台が微細な所まで克明に描かれ、手作り感が伝わってくる。

ケン氏の妻、ヘレンさんは「精巧な技術を有する木

版や彫刻、製紙技術などの長い歴史を持つ日本人に見てほしい」と語る。午前10時から午後8時までホテル・グラン・メリア

の2階ロビーで (Jl. H. R. Rasuna Said Kav. X-0 Kuningan) ☎ 6299・8000。入場無料。(鶴見泰寿 写真も)



精巧なりトグラフ（石版画）に魅入る女性